

朝日新聞デジタル > 記事

# 暗い海に響いた「助けて」 鹿島港船衝突、手探りの救助

会員記事

村山恵二、佐々木凌、伊藤良溪、大谷百合絵 2020年11月29日 7時56分

シェア ツイート ブックマーク スクラップ メール 印刷



船首を残して水没した第5不動丸(左)=鹿島港付近、康塾長提供

28日早朝に、茨城県の鹿島港付近で遊漁船と貨物船が衝突した事故。釣りを楽しみに遊漁船に乗っていた乗客と乗組員の12人全員が船外に投げ出され、うち1人が死亡した。夜明け前の暗い海に助けを求める声が響き、複数の漁船が救助に当たった。

鹿島海上保安署などによると、事故があったのは28日午前5時35分ごろ。鹿島港の南埠頭(ふとう)の沖合で、遊漁船「第5不動丸」(4・95トン)と広島市の海運業者「アキ・マリン」の貨物船「はやと」(498トン)が衝突した。

はずみで第5不動丸の乗組員2人と釣り客10人が海に投げ出され、船は船首を残して水没した。全員が救助されたが、東京都の釣り客で会員の栗原篤徳(あつのり)さん(46)が死亡した。はやとは27日午後横濱港を出て、鹿島港で荷物を積む予定だった。第5不動丸は28日午前5時前に他の遊漁船とともに鹿島港を出て、沖合へ向かっていたという。

衝突後、付近には救助のために多数の船が集まった。近くにいた漁船の男性船長(34)は事故直後、「助けてください」という拡声機の声聞いた。現場に近づくと、海中にいる人が「助けて」と訴えていた。だが、「真っ暗でどこにいるかわからなかった」。乗客らと協力し、船からロープつきの浮輪を投げて6人を引き揚げたという。

ヒラメ釣りのために別の漁船に乗っていた男性(44)は、船長からのアナウンスで事故を知らされ、デッキに上がった。「そっちにいたか?」。複数の船の乗組員どうしが慌ただしくやりとりしていた。サーチライトが救命胴衣の反射材に当たり、姿が確認できた人から順に引き揚げられたという。「もしかすると自分がその船に乗っていたかもしれないと思うと、恐ろしい思いだった」

↓ここから続き

事故の詳しい経緯はわかっておらず、今後同署が乗組員らへの聞き取りや船体調査を行う。

第5不動丸を運航する船宿の男性経営者(48)は、事故後に他の船の船長から一報を受けた。船長は、衝突した二つの船の左側がぶつかったようだと言ったという。経営者によると、乗組員は他の船を覚知するために、レーダーと目視で確認することになっている。付近はこの日、いつもより往来する船が多かったという。「普段は他の船と30メートルほどの距離をとって運航しているのだが」と話した。(村山恵二、佐々木凌、伊藤良溪、大谷百合絵)

注目の連載記事

もっと見る

子どもへの性暴力 14歳で家出し100人の家に 私は被害者? 揺らぐ心



小原篤のアニメゲ井 声優夫婦の妻がテレホンセックスを始めたら(小原篤のアニメゲ井)



CAMPFIRE advertisement featuring a baseball player and text: 'キャンプ! ノムさん 大阪球場に なんぼハウス!'

注目情報

家の売値、知りたくない? 無料! 3ステップで査定額チェック 2つの方法から選べてカンタン安心

最新DX資料プレゼント! 簡単にはじめられる社内効率化の最新事例を今すぐダウンロード!

過去最高の売上高を更新 コロナ禍を経てデジタルは次のステージへ

東京・町田の里の暮らし 40年来の守り手と大学生に話を聞く

いつでもどこでも自由に受験できる? コロナ禍オンライン模試が示した可能性

「無茶ぶり」が町工場のIT化を推進! 現場の意識変えた「見える化」とは?

【校長インタビュー】コロナ禍で高校現場はどのように学びを継続したか

50代なら考えたい相続のコト...